

国絵図研究会編『国絵図の世界(仮称)』についてお願い

以前より懸案の国絵図研究会編の刊行図書について、2月5日(日)に行なわれました伊能忠敬記念館での研究会で協議し、編集委員に7名の方(川村博忠、上原秀明、小野寺淳、種田祐司、阿部俊夫、磯永和貴、喜多祐子)を選出しました。これをうけ編集委員会では、3月26日(月)に第1回編集会議を専修大学で開き(川村、上原、種田、阿部、磯永の5名と柏書房より尾崎が出席)、図書の概要を以下のようにとりまとめました。会員諸氏のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

基本方針: できる限り多くの会員の参加を得て、国ごとに代表的な国絵図をカラー写真と平易な解説で紹介し、国絵図の価値、研究や調査の意義と重要性などの普及を広くはかり、国絵図研究の入門や調査研究の深化に役立つ図書とします。

編者: 国絵図研究会編

出版会社: 柏書房

印刷の様式: 判型=A4変形判・横二段書、頁総数=300ページ前後、オールカラー、1頁の字数=約2000文字、価格は2万円前後を予定しています。

執筆依頼(執筆要項も告知): 2001年9月2日(次回研究会にて、執筆要項などを説明)

執筆締め切り: 2002年8月末日

発刊予定: 2003年4月

内容: ①本の構成は、はじめに、目次、総説(4ページ)、本文、索引の順とします。

②本文は国ごとに2もしくは4頁までとします。3頁は避けて下さい。

③本文は国ごとに見開きで、1頁目の左に代表的な国絵図全体のカラー写真(4×5インチ以上、ない場合は35ミリ写真など数枚)を配して、右頁から解説とします。解説にもカラー写真を付して下さって結構です。

④内閣文庫などのまとまった国絵図の所蔵機関は、項目をたてて説明しますのであえて触れる必要はありません。

⑤撮影はあらためて実施しせんので、所蔵機関などに4×5インチ以上のフィルムの貸し出しが可能か執筆者でお問い合わせ下さい。掲載許可は、執筆者の指示で柏書房が一括して行ないます。

⑥解説の項目は、1 国絵図の種類と所蔵先(多い場合は表化)、2 国絵図の編纂過程、3 記載内容の特徴、4 関連文献一覧とします。

⑦国の配列は、日本の北(蝦夷)から南(琉球)へと配し、旧国と都道府県の関係を示す図を付します。

⑧本文中や本文のあとに重要用語や研究の視点などのコラムや解説を付します。現在、「郷帳」「正保城絵図」、「国絵図と絵師」「国絵図調査の経験談」などがあがっていますが、その限りではありません。同封の葉書に会員諸氏のご意見を募り、編集委員会で検討したいと思います。

執筆者: 5月末日締め切りで同封の葉書で希望を募り、担当者が重なる場合は6月に編集委員会を開き調整します。希望のない国やコラムなどについては、僭越ながら編集委員会より執筆者を依頼します。会員の皆様の積極的な参加をお待ちします。

罫紙と変地帳（かいちちょう）の読み

私が本格的に国絵図研究をはじめたのは昭和46年（1971）頃であったが、調査を進める過程で関連史料をあさっていると、歴史用語辞典などをめくっても収録されていない多くの国絵図に関する特殊な用語に出会った。そのなかでも長らく用語の意味や読み方の分からないでとまどっていたものに「罫紙」と「変地帳」があった。

「罫」を諸橋の『大漢和辞典』で調べると「ライ」「ルイ」「レ」などと読むが、「罫紙」という用語は見出せない。「罫紙」は「罫紙」の略字であろうかなどとも考えたが、それでは意味が通ぜず地団駄を踏む思いであった。

しばらくたった頃、東大史料編纂所のメンバーを主とした科研「現存古地図の歴史地理学的研究」（代表者、土田直鎮教授）にて黒田日出男氏らが全国に残る国絵図の調査を組織的に実施された。そのような過程の中で黒田氏との研究交換がはじまり、この「罫紙」の意味するところを尋ねたところ即座に明快なご教示をいただき、懸案の問題が一举に氷解した。

その語は「らいし」と読むもので、絵図面の余白を意味するというので、広辞苑にも出ているということであった。さっそく手元の広辞苑にて「らいし」を引いてみると「礼紙」がでており、その説明のなかに「書物や書状などの紙の端の文字のない部分」とあった。『角川古語大辞典』には「礼紙」の項に「近世の用法では罫紙と表記されることがある」と説明されていた。国絵図を調べるうえで、今ではこの語は周知のものとなっている。

他方、「変地帳」の用語の意味は思い煩うこともなかったが、この語の読み方が長らく気になっていた。近世の歴史用語辞典などには見出せないが、『日本国語大辞典』には「変地」（へんち）の項があって「江戸時代、災害などによって田畑の地味が悪くなることをいう」と説かれている。

昭和59年（1984）に上梓した拙著『江戸幕府撰国絵図の研究』（古今書院）の巻末に載せた用語解説では覚束ないまま「へんちちょう」とルビをつけておいた。その後、研究者仲間と会話を交じわす折にいずれの人もこの語を「へんちちょう」と呼ぶのが気がかりであった。どこかの史料にルビを付したものにいくわさないだろうかと長らく願っていたが、なかなかその思いが果たせなかった。

過日（1999年8月）、臼杵図書館での国絵図研究会の折、杉本史子さんから金沢の史料に変地には「カイチ」とルビがあったとの話を聞いて、やはりあったかとうれしくなった。ところで、もう一つぐらい根拠となる証拠はでないものかと思っていたところ、このたび米沢の史料『御絵図由来覚書』をみていたら、この語に「カイチ」の振り仮名が付してあるのを見出すことができて、積年の迷いからようやく開放された。「改作」（開作）や「改道」という語があるので「変」（かい）は「改」の当て字であろうか。

このように「変地帳」にルビがあることをみると、当時においてもやはりこの語は読みづらかったとみえる。拙著の解説での読みの間違いをお知らせしておきたい。（川村博忠）

額田雅裕先生より伊能忠敬記念館所蔵で閲覧しました国絵図に関するデータを提供していただきました。

伊能忠敬記念館所蔵国絵図（重要文化財）

2001・2・5（額田）

カード番号	本紙法量 (cm)		備考
107 諸国大絵図	(原則縦×横、一部不明あり)		
1	筑前国図	人	180.0×335.0 (畳本表紙：31.8×23.3)
2	筑前国図	地	188.7×234.8
3	筑後国図		147.0×193.4
4	筑後国図		281.3×255.7
5	肥前国図		228.0×154.0 (五島列島)
6	肥前国図	上	152.5×286.0
7	肥前国図	下	168.5×287.5
8	肥後国図	上	164.0×362.0
9	肥後国図	(下)	176.5×374.0
11	豊前国図		269.0×170.5 (付足124.0×99.0)
12	豊後国図		235.0×215.5
	(付足①-⑩101.5×110.3, 付足①-⑩36.4×23.7,		
	付足②-⑩104.2×105.5, 付足②-⑩72.7×26.2)		
13	薩摩国図	乾	361.4×353.0
14	薩摩国図	坤	354.4×320.4
15	大隅国図	坤	340.4×352.8
	(付足①9.0×24.4, 付足②未計測×71.0)		
16	大隅国図		×
108 諸国大絵図			
6	下総国図		192.0×185.5
10	紀伊国図		59.0×69.5
16	武蔵国図		224.5×249.0

その他、別班計測及び未計測資料あり

青野氏 10月9日(火)
10月15日 4時00分

第15回例会の予報 岡山大学池田家文庫の閲覧と研究発表

倉地克直・青木充子両先生のお世話で下記の通り、岡山大学附属図書館の池田家文庫で第15回例会を開催することとなりました。参加申し込みや宿泊施設などについては、次回の国絵図ニュースでお知らせいたします。ふるってご参加下さい。

■日程

9月2日(日)：研究会 15:00～

報告：川村博忠(東亜大学)：「寛永日本図・国絵図をめぐって」(仮題)

懇親会 18:00～

9月3日(月)

9:30 池田家文庫の寛永日本図・国絵図の熟覧

11:30～13:00 昼食／国絵図刊行図書についての会議を行ないます。

13:30～15:00 午前に引き続き熟覧

15:00 解散

本年度の会費を徴収します。同封の郵便振込用紙でお支払下さい。

一般2000円、学生・院生1000円です。

新しく研究会の会計を上原秀明先生にご担当いただくことになりました。
それにともない、国絵図研究会の口座が下記に変更されました。ご注意下さい。
口座番号 00220-3-69958 名称 上原秀明

編集後記

今回のニュースは、川村先生から玉稿を額田先生から伊能忠敬記念館の国絵図幅員データを賜りました。誠にありがとうございました。原稿は随時募集しております。

いよいよ国絵図研究会編の図書刊行が本格的に始動します。我国の国絵図がこれ一冊に凝縮されているという企画に、今から完成が待ち遠しくてなりません。一人でも多くの会員の方に執筆していただくことを心から願っています。よろしくお願いします。

編集担当の礒永が一身上の都合で、宇治市歴史資料館を3月一杯で退職し、郷里の福岡にもどることとなりました。5月下旬には、新しい下記の住所となりますのでお見知りおき下さい。一時、バタバタすると思いますが、国絵図ニュースについては、変らず担当しますので宜しくお願いします。福岡県大牟田市大字三池895-1

今年の京都は、例年になく暖かい日がつづき梅から桜へのシフトが早かったようです。編集子(礒永)が大学に入学したのは、1980年です。京都の生活は、20年となりましたが、あまり「はんなり」した京言葉とその性格を覚えられなかったのが残念です。また、その半分の10年余は、宇治市歴史資料館での勤務でした。開館以来収蔵庫に眠っていた正保山城国絵図について書いた拙い論文が、はじめて国絵図をあつかったものでした。また、第1回の国絵図研究会の例会は、宇治市歴史資料館でした。すでに次の例会が15回を数え二ニュースも今号で10号となりました。どなたか、ニュースで国絵図との出会いをお書き下さいませんか。

《編集担当：礒永和貴》〒610-0114城陽市市辺柿木原53-11 TEL・FAX 0774-56-2995